

# 羅針盤



社会科部 情報活用委員会

## 子供たちが主体的に取り組む社会科の授業

社会科部長 松浦 良昭

今年度も、基礎研修委員会、小中の授業研究委員会、研究作品委員会、情報活用委員会の活動を中心に、社会科部の活動が始まりました。基礎研修委員会では、ここ数年、市内のフィールドワークをしながら、地域素材の理解を深め、どのように教材化するとよいかを考える研修をしています。かつては市社会科部や三教研等で、碧南や川越の火力発電所、浜岡原子力発電所、矢作ダム、田原のビニールハウスなど、市外巡検に出かける機会がありました。そうした機会がなくなった今、授業力・教師力アップセミナーで市内各地に足を運び、実際に自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じることは、貴重な教材研究となります。

授業研究委員会の授業研究も、基礎研修委員会同様、長く継続されている活動です。以前は、指導案検討の機会を今よりも数多くもつことができました。その検討会でよく耳にしたのは、「この1時間で、この単元で、子供たちにどんな社会認識を育てたいのか」「この資料で、子供の意識をどのようにしたいのか」「この人物の生き様の、どこをどう学ばせようとするのか」などといったことでした。しかも、さまざまな面からの意見が飛び交うので、侃々諤々（かんかんがくがく）の議論となることもしばしばありました。社会科の授業づくりのこうした視点は不易の部分であり、今もなお、検討会で耳にする言葉となっています。

また、社会科部のホームページの更新や実践指導案等の掲載、社会科部報「羅針盤」の発行などの活動をしている情報活用委員会、社会科研究作品展の準備や運営に携わる研究作品委員会、その他にも自主研修会「セーリング」、郷土読本編集委員会、おかざき映像教材研究会など、社会科部および社会科を教える先生が関わる活動は多岐にわたっています。

これらの社会科部の活動は、社会科の授業を通して社会科好きな子供たちを育てるのに、大いに役立っています。子供たちの興味や関心を刺激して、子供たちに追究意欲をもたせれば、おのずと主体的な学習になっていきます。そのためには、教材との出会いで子供たちに問題意識をもたせること、そこから単元を貫く学習課題を設定し、見学でみつめてきたことや資料で調べたことを学習課題に結び付けていくことが必要です。こうした授業づくりを心がけ、今年度の研究主題「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」の下で、子供たちの主体的な学習が日々進められることを願っています。

## ちよつと寄り道

～「小豆坂古戦場跡」(小豆坂小学区)～

小豆坂は、戦国時代、織田軍と今川氏・松平氏の連合軍の争いである「小豆坂の戦い」が繰り広げられたと伝えられている場所です。「小豆坂の戦い」は、1542(天文11)年と1548(天文17)年の二度にわたって行われ、第一次合戦は織田軍が、第二次合戦は今川・松平の連合軍が勝利しました。岡崎の英雄、徳川家康は、今川家の人質として苦難の日々を送っていましたが、そのきっかけは、この「小豆坂の戦い」だとも言われています。

小豆坂小学区には、この他にも、戦いで使った武器や馬を洗ったと言われる「血洗池」「馬洗池」があったことを示す石碑や、第一次合戦において織田軍で活躍した「七本槍」を顕彰した「槍立松」の石碑なども現存しています。

小豆坂古戦場跡は、学区の子供たちが歴史に親しむ場であり、地域の方の歴史散策のスポットにもなっています。「小豆坂の戦い」の歴史が、これらの石碑を通して、今後も地域の人々や子供たちに伝承されることを願っています。(小豆坂小 矢澤 舞)



小豆坂古戦場跡の石碑

# 愛社研大会情報

## 1 テーマ

「社会に参画していこうとする子どもの育成をめざし、仲間とかかわりながら問題の解決を図る社会科の授業」(最終年)

2 期日 平成29年10月24日(火)

3 会場 田原市立田原東部中学校 田原市立神戸小学校 田原市立田原東部小学校

※ 詳細は、後日配付する資料をご覧ください。

※ 本年度、岡崎市社会科部の代表として、吉見明先生(羽根小学校)と中根良輔先生(翔南中学校)が実践を報告します。多くの先生方のご参加をよろしくお願いいたします。

(愛社研担当 岡崎小 内藤 恵三 竜南中 佐々木幸美)

## 平成29年度「授業力・教師力アップセミナー【基礎編】」

今年度の「授業力・教師力アップセミナー【基礎編】」は、次のような内容・日程で計画しています。

① 日 時 平成29年8月1日(火) 9:00~15:30

② 場 所 岡崎市図書館交流プラザ「りぶら」301会議室  
岡崎城周辺(二十七曲・乙川河川緑地)

③ 研修内容 研修1…見学実習

「岡崎城・二十七曲・乙川河川緑地のフィールドワーク」

<講師>岡崎むかし館主任専門員 野本欽也 先生

研修2…講義

「岡崎城周辺での学びから授業を組み立てる」

研修3…地域素材の教材開発

「フィールドワークを振り返って」



※「研修1」終了後、りぶらへ戻ります。

※昼食は各自で用意してください。近隣の飲食店を利用しても結構です。

※フィールドワークは暑くなることが予想されます。フィールドワークに適した服装でご参加ください。

熱中症予防のタオルや帽子、十分な水分の準備をお願いします。

## 平成29年度社会科部の組織

部長	松浦 良昭(城南小) 杉田 吉男(六ツ美中) 片桐 徹(藤川小)		
指導員	山崎 彰伯(藤川小) 森田 淳一(翔南中)		
世話係	長谷川威全(羽根小) 木村 充隆(矢作西小) 原田 康司(福岡小) 内藤 恵三(岡崎小) 佐々木幸美(竜南中) 中根 良輔(翔南中) 加藤さなえ(南中) 成田 道俊(竜海中)		
委員長	基礎研修	委員長 原田 康成(男川小)	副委員長 権田 康成(福岡中)
	授業研究(小)	委員長 加藤 周司(矢作東小)	副委員長 新井 健祐(梅園小)
	授業研究(中)	委員長 小久江友見(葵中)	副委員長 酒井 孝康(額田中)
	研究作品	委員長 平川 誠(大樹寺小)	副委員長 矢澤 舞(小豆坂小)
	情報活用	委員長 實松 勇太(大門小)	副委員長 勝冶 貴志(矢作中)

## 平成29年度社会科部新任紹介

清水菜月(根石小) 坂本篤彦(男川小) 白木歩澄(六名小) 森本 彬(竜美丘小) 柏崎安衣子(広幡小)  
竹内公一(井田小) 向 孝太(福岡小) 菅沼勇志(細川小) 横溝陽美(細川小) 下岡奈央(岩津小)  
忠内亮太(大門小) 和田明莉(矢作北小) 大橋 礼(矢作南小) 古賀範和(六ツ美中部小) 西村文利(六ツ美北部小)  
池田美輝(城南小) 岡田玲奈(上地小) 渡邊康暉(上地小) 浅井健志(小豆坂小) 杉下 尚(美川中)  
伊藤正信(東海中) 牧野さとみ(北中) 永田恭子(六ツ美北中) ~新しい23名の先生方の今後の活躍に期待しています!!~

## 「夏休み子ども体験講座」「夏休み社会科自由研究相談会」について

- 期 日 7月23日(日) 24日(月)
- 時 間 ① 10:00~11:30 ② 14:00~15:30
- 場 所 岡崎むかし館 (りぶら1階)
- 講 師 野本 欽也 先生 (岡崎むかし館・主任専門員)
- その他 ・参加希望者は、上記の時間帯に、岡崎むかし館に来てください。  
・事前の申し込みなどの必要はありません。



## 夏休み 社会科研究作品づくり について

- 作品の内容 ・社会科学習 または 社会科の発展学習  
・おかざき学習 (岡崎の心の醸成につながる郷土学習)に関するもの。
- 作品の体裁 ・模造紙 **1枚半以内** (学校で配付された用紙の利用も可)  
別添資料として、ノート、ファイル、スケッチブックなど。  
・ノートやルーズリーフ等のみでもよい。
- 作品の書き方 ・学校で配付される模造紙、ノートの書き方見本を参考にする。  
・「**研究テーマ**」「**学校名**」「**学年**」「**名前**」を必ず記入する。

ルーズリーフの場合は、バインダ等に必ずとして、表紙を付けましょう。

## こんな研究作品づくりをめざそう

- ①これまでに取り組んでいないテーマを選ぶ。
- ②自分の足で歩いて調べ、自分の目で確かめてある。
- ③ねばり強く調べ、たくさんの資料を集めてある。
- ④学区や岡崎市に関係するテーマや調べがある。
- ⑤調べたことを比べたり関係づけたりして、まとめている。
- ⑥調べたことの確かさをもとに、自分の考えをまとめている。
- ⑦世の中の課題や今後の社会のあり方について、自分なりの見方や提案が示している。
- ⑧自分の強い思いや願いが表されている。

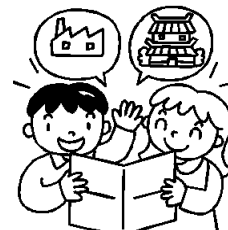


## 昨年度の優秀作品の研究テーマ

- 小学校** 「羽根小学区～公園めぐり～」  
「なぜ六ツ美は岡崎市なのか？」  
「災害に備えて色々調べ、体験してみた」  
「源義経はどの道を通ったのか」
- 中学校** 「細川に残る信仰の道 真福寺道」  
※研究を通して、「今」そして「これから」を見通すという視点を大切に取り組もう。  
※各学校にある「社会科研究作品展・発表会」の冊子の内容を参考にしよう。

## 「社会科研究作品展」「社会科研究作品発表会」 について

- 展示期間 9月30日(土) 10:00 ~ 10月10日(火) 17:00
- 展示場所 りぶら2階ギャラリー  
・岡崎市小中学校児童生徒の研究作品を展示します。  
・展示された作品には、賞状を授与します。
- 作品発表 10月7日(土) 10:00~11:30
- 発表場所 りぶら1階 103 会議室 (岡崎むかし館の隣の部屋)



# 「社会科部 研究の重点目標について」

## 研究主題

「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」(1年目)

### ◆『仲間とかかわりながら』

ここでいう「仲間」とは、共に学び合う学級の子どもたちだけでなく、学びを通してかかわる人たちもすべて含めたものを意味する。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間とかかわりあうことが礎となるべきであると考え。そのために、

- ・ 追究において、学級の「仲間」とともに様々な人・もの・こととかかわりながら、仲間と考えを認め合い、高め合う場を重ねていくことで、協働して考えを深める子どもの姿を求める。
- ・ 学習の対象となるすべての人とかかわりを深め、「仲間」として意識することで、問題に対する切実感を高め、協働してより高い次元の学びへと導く。

### ◆『よりよい社会づくり』…『よりよい社会』

とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会(持続可能な社会)である。

よりよい社会づくりのために、

- ・ 目の前やこれから起こりうる問題を解決するために、様々な方法で追究し、仲間と互いに協働する中で、自分の考えを深め、問題の解決に迫る子どもの姿を求める。
  - ・ 自分の考えと仲間の考えのよさをそれぞれ生かしながら、よりよい解決をめざす子どもの姿を求める。
- 問題の解決が見えた先にあるのが『よりよい社会』である。

### ◆『参画をめざす』…『よりよい社会づくり』

へ「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とかかわりに「思いをはせる」姿もめざす。そのために求められる資質や能力は、

- ・ 資質…確かな社会認識、価値判断、行動力
  - ・ 能力…コミュニケーション能力
- こうした資質や能力を培うことで、変化の大きい今日の社会において、現在だけでなく、未来においても、子どもが主体的に社会にかかわる姿勢、つまり、『参画をめざす』姿が見られるようになることを考える。

## 【本年度の重点】

### 「仲間とかかわりを通して、よりよい社会づくりとはどのようなものか考える姿の実現」

子どもが、国内外や自分の住む地域に山積する課題に目を向け、仲間とかかわりの中で、より多くの人々が幸せになれる社会づくり(持続可能な社会づくり)とはどのような姿であるか考えようとする社会科の授業を実現したい。その上で、よりよい社会をつかっていくためには何が必要かを仲間とかかわりの中で考え、自ら判断し、参画へつなげようとする姿を社会科の授業で実現したい。

その基礎となるのは確かな社会認識力である。より多くの人々が幸せになれる社会をつくるためには、社会の現実を見極める力が必要であり、多面的な思考によって、より高度な社会認識力を養わなくてはならない。そのために、学ぶ過程において、子どもが自分の思いや考えを率直に述べ合うことで、対立から合意への転換を意図し、友達の考えのよさに共感したり、そのよさを自分の考えに取り入れて、より深まった考えをもったりすることを目指したい。そして、よりよい社会づくりの実現のために自分にできることを多面的な社会認識を基に考え、参画しようとする姿を求めていきたい。

◎ 子どもが合意形成を進める中で、自分の考えを的確に伝えたり、友達の意見に共感したりよさを取り入れたりするためには、どのような支援が有効であるかを研究する。

◎ 学びを通してかかわる人々から多面的な社会認識を得るためには、どのような単元構成や手立てが必要であるかを研究する。